

一般質問

6月定例会では、17人の議員が一般質問を行いました。(順不同)

Q&A



一般質問とは、本会議で議員が市政全般にわたって市長等(執行機関)に対して疑問点を質問したり、政治姿勢を明らかにしたりするものです。



新型コロナウイルスの脅威となる喫煙を減らすために
【いせはら未来会議】橋田 夏枝

受動喫煙を含む喫煙が、新型コロナウイルスの感染や重症化のリスク要因となるのが今回の感染拡大で明らかになった。重症化するリスクを防ぐために、市全体で喫煙者を減らす取り組みをすべきと考えるが、見解を聞きたい。

また、各種健康事業等での保健師によるアドバイスや、クルリン健康測定コーナーに肺年齢測定機を配置し、禁煙を考える一つの機会として活用している。

今後市民の健康寿命の延伸を図っていくため、啓発活動に取り組んでいく。

健康いせはら21(第3期)計画の目標に、喫煙者の割合の減少を位置づけ、禁煙や受動喫煙の防止について意識啓発に努

【その他の質問】

◎コロナ禍における子育て家庭への支援について



臨時休業に伴う学校給食への対応について
【創政会】米谷 政久

小中学校の臨時休業に伴う、学校給食に対する国の施策である衛生管理改善事業は、直接の納入事業者が対象である。間接的な納入物品で、本市所在の製造業者は対象となるのかについて聞きたい。

【学校教育担当部長】

給食調理業者や加工業者が、新型コロナウイルス感染症を踏まえた衛生



市民一人一人が安心安全に過ごせる街づくりを
【創政会】長嶋 一樹

今回の補助金の対象となる事業者は、納入登録事業者と調理委託事業者を考えているため、登録

事業者ではない納入事業者については、対象とは考えていない。

新型コロナウイルス感染症に乘じた犯罪が市内で発生していたのかどうかを含めて、市内の犯罪発生状況および犯罪対策の現状と課題について聞きたい。

狙った窃盗事件が1件確認された。防犯対策としては、防犯カメラや防犯灯の設置を計画的に行っており、注意喚起として、ホームページに、いせはら防犯マップの掲載や、くらし安心メール、防災行政無線による情報発信等を行っている。

【市民生活部長】令和元年の本市における刑法犯発生状況は、全体で459件で、5年前の平成26年と比較すると280件減少している。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う混乱等に乘じた犯罪の発生状況は、臨時休業中の店舗を

課題としては、特殊詐欺の被害件数が増加傾向にあるため、今後も関係機関と連携し、引き続き防犯対策の強化を図っていく。



「開発申請」については、ルールに従った対応を
【日本共産党】宮脇 俊彦

東富岡の農地造成について、水路の確保が行われた後に、造成工事に着手すれば残存水路に水がたまるような事態は起こらなかったと考えるが、経過と再発防止について聞きたい。

農地造成工事の水路の付け替え申請に伴い、排水機能を確保する工事が行われており、滞水などの支障がないと判断していたが、盛土からの絞り水や湧水さらに季節的な大雨といった想定外の事態により、



コロナ禍における避難所運営について
【創政会】大垣 真一

市民意識調査の結果でも防災意識が向上し、重要度も増している中、コロナ禍における今後の避難所運営に対し、どのような対応や工夫がされるかなどについて考えを聞きたい。

新型コロナウイルス感染症の終息には相当程度の時間を要するとの予測がある中、感染症対策を踏まえた風水害や大規模地震の際の危機管理体制の構築は、喫緊の課題と認識している。

【危機管理担当部長】

感染症対策を前提とした避難所運営が求められる中、①避難所の開設、②避難行動の周知、③避難所の感染防止対策、④自宅療養者の避難の4つの視点から対策を講じていく。

避難所運営に当たる職員、施設管理者とも情報共有しながら、避難所運営のコミュニケーションや必要な物品の確保など、できる限りの対策を講じていきたいと考えている。



「伊勢原スタイル」を実現する電子化の推進について
【いせはら未来会議】相馬 欣行

ICT化推進により、市民の暮らしやすさや、市職員の対面での窓口対応の低減により、感染症防止対策まで図られると考える。安全安心で効率のないせはらスタイルを実現するため、マイナンバーカードやくらし安心メールなどの取り組みについて見解を聞きたい。

「伊勢原スタイル」を実現する電子化の推進について、マイナンバーカードを利用したマイナポータルへのワンストップサービスによる手続きの拡大や、市発行の他カードとの統合など、さらに活用拡大することで、サービスの向上につながると考える。



感染症対策、学びの保障のために少人数学級の推進を
【日本共産党】川添 康大

子どもの集う学校で、万全の感染症対策を行うことは重要であり、身体的距離の確保等のためにも、少人数学級を早急に推進、拡充していく必要があると考えるが、見解を聞きたい。

置するための経費が計上されているが、多くの自治体で教員の確保に苦慮しており、本市においても、本制度を活用して、少人数での指導を行うことは難しい状況である。

【学校教育担当部長】

少人数学級の推進は、身体的距離の確保や学びの保障という観点からも有効な手だてであると認識している。国の令和2年度第2次補正予算に追加教員を配

少人数学級の実施には、教職員定数増が必須であるなど、難しい状況であるが、学校支援スタッフの確保や物的体制整備など、国の支援メニューも活用しながら、子どもたちが安心して学べる環境づくりに努めていく。



「しあわせ創造都市いせはら」の実現に向けて
【創政会】小沼 富夫

第5次総合計画で掲げている「しあわせ創造都市いせはら」について、どの程度、目標に近づいているのか、目標に近づいているのか、市長の見解を聞きたい。

令和元年度の市民意識調査の結果では、幸せを実感している市民の割合が5年前と比較して、上昇していることから順調に進んでいると捉えている。

【市長】恵まれた地域医療を最大限に生かした市民の健康づくりのほか、日本遺産の認定など、観光を切り口に地域産業全体の活性化、東部第二地区における産業基盤等の創出、子育て世代にも選

一方、対応すべき大きな課題もあり、解決に向けて、今後も全力で取り組んでいく。